動詞から

ひろがる

人権学習

「動詞からひろがる人権学習」

を活用した研修の進め方

　本書は、参加者が講師の話を一方的に聴く研修ではなく、参加者どうしが学び合えるような双方向の研修をめざして開発されました。この冊子では、13のエピソードを集めた形式になっていますが、研修において、一つ一つのエピソード中心に使用できるよう、Ａ３版の用紙を二つ折りにしたパンフレットト（４ページ）の形式で作成しています。研修を企画する際には、テーマに合ったパンフレットを選んでご活用ください。ここでは、その活用事例を紹介します。

●学校で同和問題を学習してきた子どもが発した質問とは？　②

●自立生活を選んだ障がい者と介助者、どちらが決める？　③

●育児休業を取った男性、男女共同参画とは？　①

●宝物のように思っている子どもについ手が出てしまったとき　④

●病院からまさかの再検査通知。避けたい気持ちが膨らむが…　⑬

●在日韓国・朝鮮人の彼女はなぜ名のってくれたのか？　⑤

●高齢者の恋、共同生活をはじめようと誘われたとき　⑥

●励ましてくれるのはありがたいけど、本当は…　⑫

●隣に越してきた外国の家族、声をかけるべきかどうかどうか　　⑪

大阪府教育委員会

●夜更かしをして駅に

でも車イス用の出口は…　⑩

●パートタイムで仕事をはじめた母、でも家族は相変わらず　⑨

●いよいよ就職活動、どんな質問項目はダメ？　⑧

●エイズと噂された歌手がとった行動とは？　⑦

１．パンフレットを中心に参加者の対話やグループでの討議を行う場合

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 活動 | 留意点 |
| ５分 | 研修の目的と概容の説明  参加型研修であること、無理をせず自主的に参加することの大切さを伝えます。 | ●研修の最初にアウトラインを提示することで、参加者の研修への参加意欲を高めます。 |
| ５分 | アイスブレイキング  「バースデイ・チェーン」や「じゃんけんポン・アイコが勝ち」など、２人組の対話に移れるようなアクティビティを行います。 | ●この段階でのアクティビティは、参加者の心をほぐすものを選びます。２人１組になるよう着席し、簡単に互いの自己紹介をしてもらうだけでもかまいません。 |
| ５分 | ２人１組の着席とパンフレットの配布 | ●アイスブレイキングでできた順番で２人１組になってもらいます。 |
| ５分 | エピソードの読み上げ  パンフレットの最初のエピソードを読み上げます。 | ●黙読では、個人によってスピードが違いますので、進行者が読み上げるようにします。 |
| ５分 | ２人組での対話  エピソードについて「対話のために」などを参考にしながら自由に対話してもらいます。 | ●時間に余裕がある場合は、ペアを変えて、もう一回対話してもいいでしょう。 |
| ５分 | 対話の内容の発表  ２人でどんなことを話したのか、何組かのペアに発表してもらいます。 | ●すべてのペアに発表してもらう必要はありません。対話の間にどのペアに聞くのかを決めておいてもいいでしょう。 |
| 10分 | 発展編などを利用した情報提供  進行者から、対話の内容についてのコメントをしたり、発展編の資料の説明や問題提起を行います。 | ●対話から次のグループでの話し合いにつながるような、情報提供をこころがけます。新聞の記事や投書などを準備してもいいでしょう。 |
| 20分 | グループでの話し合い  キーワードの「動詞」をテーマに、グループで自由に話し合います。 | ●グループの人数は、４人（２つのペア）が最適ですが、多くても５人までにとどめます。 |
| 15分 | 各グループの発表  各グループで話し合ったことを１～２分で紹介し合います。グループでの意見交換だけでなく、全体の意見を聞くことで、参加者どうしの学びを形成します。 | ●あらかじめ発表者を決めておく方がまとまった発表が得られます。 |
| ５分 | まとめ  進行者が、出された発表へのコメントなどをしながら、研修のまとめを行います。 | ●参加者相互の学びを大切にするため、一方的な押しつけにならないよう、まとめを行います。 |

80分（時間調整のため、グループの発表の前に休憩を入れる場合もあります。）

２．パンフレットとビデオを活用する場合（項目だけの内容は、１．と同じです）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 活動 | 留意点 |
| ５分 | 研修の目的と概容の説明 |  |
| ５分 | アイスブレイキング |  |
| ５分 | ２人１組の着席とパンフレットの配布 |  |
| ５分 | エピソードの読み上げ |  |
| ５分 | ２人組での対話 |  |
| ５分 | 対話の内容の発表 |  |
| 25分 | ビデオ（視聴覚教材）の視聴  エピソードに関係したビデオを視聴します。視聴する前に、後からグループでどのような話し合いをするのかを提案します。 | ●50分以上のビデオになると、それだけで一つの研修になりますので、25分程度のものを選ぶかその程度の部分だけを映写します。 |
| 20分 | グループでの話し合い  ビデオの内容やパンフレットの内容を中心として、キーワードの「動詞」をテーマに、グループで自由に話し合います。 | ●グループでの話し合いは、ビデオの内容中心のグループ、パンフレット中心のグループ、参加者の問題提起中心のグループなど、多様な方が相互の学びが豊かになります。 |
| 10分 | 各グループの発表 |  |
| 20分 | まとめ |  |

95分（ビデオ視聴の前に休憩を入れる場合もあります。）

３．パンフレットと講演を活用する場合（項目だけの内容は、１．と同じです）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 活動 | 留意点 |
| ５分 | 研修の目的と概容の説明 |  |
| ５分 | アイスブレイキング |  |
| ５分 | ２人１組の着席とパンフレットの配布 |  |
| ５分 | エピソードの読み上げ |  |
| ５分 | ２人組での対話 |  |
| ５分 | 対話の内容の発表 |  |
| 60分 | 講演  エピソードに関係した公園によって、人権問題の現状や取組みについて情報提供してもらいます。 | ●講師の方には、あとのグループ討議につながるように、結論を押しつけるのではなく、問題提起型の講演をお願いしておきます。 | |
| 20分 | グループでの話し合い  講演の内容やパンフレットの内容を中心として、キーワードの「動詞」をテーマに、グループで自由に話し合います。 | ●グループでの話し合いは、講師への質問なども出してもらうようにすると、より内容が深まります。 | |
| 15分 | 各グループの発表 |  | |
| 15分 | まとめ  講師を依頼している場合は、進行者がまとめるのではなく、講師によって、グループから出た意見や質問にコメントしてもらう方が効果的です。 | ●この事例の場合は、研修の進め方やねらいを事前に充分講師と打合せする必要があります。場合によっては、進行者がまとめる場合もあります。 | |

140分（講演のあと、休憩を入れる場合もあります。）

以上、３つの事例を紹介しましたが、

基本は[１．パンフレットを中心に参加者の対話やグループでの討論]を活用することに　あります。

　参加型学習の原則は、「参加者には力がある」と表現されることがあります。成人の学習の場合は、参加者がそれぞれの経験をもっていることを、一つの大きな資源とすることができますが、単に「お互いの経験を話し合ってください」と呼びかけても、何をしゃべったらいいのか戸惑うことになるでしょう。本書に掲載したエピソードや各種の資料は、参加者のそういった経験を互いに出し合って学ぶための触媒となるよう、開発されたものです。一編のエピソードが、対話の場合は２人を、グループでの話し合いの場合には４人を、今ある日常とは違う状況に連れ出し、その状況を借りて、お互いの対話から学んでいくことをねらいとしています。

　その学習活動をより豊かなものとするためにビデオ教材や講師による講演を活用するということを前提にしました。